

BUỔI



Dạng ẩn dụ, so sánh



Luyện tập

問題 10 :

雨が降れば傘をさす。傘がなければ風呂敷^{ふろしき}でもかぶる。それもないとぬれるしか仕方がない。雨の日に傘がないのは、天気^{てんき}のときに油断^{ゆだん}して、その用意をしなかったからだ。雨にぬれて、はじめて傘の必要を知る。そして次の雨にはなれないように考える。雨があがれば、何をおいても傘の用意をしようと決意する。これもやはり、人生の一つの教えである

わかりきったことながら、世の中にはそして人生には、晴れの日もあれば雨の日もある。好調^{こうちょう}の時もあれば、不調^{ふちょう}の時もある。にもかかわらず、晴れの日が少しつづくと、つい雨の日を忘れがちになる。好調の波がつづくと、ついゆきすぎる。油断する。これも、人間の一つの姿であろうか。

問い：この文章の内容として最も適切なものはどれか。

1. 雨の日に傘を持っていないのは、つい油断してしまうからである
2. 人生がうまく行っている時は、悪い時に備える心を忘れがちだ
3. 人は、雨があがると、いつもつい傘をどこかに忘れて来てしまう
4. 人生が好調な時は晴れの日が続くので、傘を準備しておく必要はない

問題 1 1 :

足が速い人は、生まれつき速い。遅い人は、生まれながらにして遅い。特に短距離走はポテンシャルの勝負ー。

そう思っている方が多いでしょうし、私もつい数年前まではそう思っていました。そして、ある面ではやはりその通りなのです。生まれ持った骨格や腱、筋肉などの質によって、足の速さはかなりの部分まで決まってしまう。

車と同じで、エンジンの性能を超えた走りはできません。

ただし、多くの人は、性能を限界まで引き出していないのです。また、エンジンの性能がアップしなくても、タイヤを履き替えたり、運転テクニックを上達させたりと、スピードをアップさせる方法はほかにいくらでもあるのです。

問い：この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

1. 車の速さは、エンジンの性能によって決まる
2. 足が速いか遅いかは、生まれながらにして決まっている
3. 車のスピードをアップさせる方法は、いろいろある
4. 足が遅いと思っている人も、工夫すればもっと速くなれる

問題 1 2 :

なんかの本で読んだ話。ある山の麓^{ふもと}で、おじいさんと孫が、山鳩^{やまばと}の雛^{ひな}を育てていた。その山の反対側に、別のおじいさんと孫がいて、こっちは鷹^{たか}注の雛を育てていた。それぞれの雛が成長して、飛べるようになったんで、ある日、空に放してやった。そしたら、鷹が山鳩を食べてしまった。山のこっち側では、山鳩が喰われたって泣いた。向こう側では、鷹がはじめて餌を獲ったって喜んだ。ひとつの現象なのに、山のこっちと向こうでは、まるっきり正反対のことが起きたってことになる。

妙^{みょう}な話だけど、人生の喜びや悲しみは、根本^{こんぽん}的にそういうものだ。この世で起きることには、本来、何の色も着いていない。

そこに、喜びだの悲しみだのの色を着けるのは人間だ。

問い：この文章の内容として最も適切なものはどれか。

1. 住んでいるところが変われば、同じ現象でも違って見えるものだ
2. 人生にうれしいことも悲しいこともあるのは、しかたがないことだ
3. いくら人が喜んだり悲しんだりしても、起きたことはどうすることもできない
4. 世の中で起きる物事は、立場によって見え方や意味が変わってくる